

# 淡路島の古代の魅力を届ける ニュースペーパー

Vol. 2

2017年11月18日(土)に初めて開催された日本遺産フェスティバルは、淡路島の歴史ストーリーを存分に味わってもらえる絶好の機会となりました。同時開催の「食のブランド「淡路島」オータムメッセ2017」、「御食国 和食の祭典in淡路島」もあわせ、たくさんのお客様が足を運んでくださいました。今号では、日本遺産フェスティバルに出展したブースをご紹介します!



11ヶ所の文化財が認定

## 淡路市

1000年前の製法を今に伝える淡路和紙、オリジナルLINEスタンプ、古代から国生みまでをつなぐアニメーション、高校生が伝える淡路島産の食材など、歴史の糸を今につなげるブースが集まりました。



8ヶ所の文化財が認定

## 洲本市

書道師範が手掛ける写経風の古事記、高級チョコと銅鐸がコラボした新商品、現代に再現される人形浄瑠璃の焼き印をはじめとした、日本遺産を新しい切り口で楽しませるブースが展開されました。



12ヶ所の文化財が認定

## 南あわじ市

小学生が今に継ぐ織り物、銅鐸をアレンジした風呂敷、古代米をつかった黒米おはぎ、古代の塩づくりからヒントを得た藻塩プリンなど、語り継ぐ担い手となる新しい商品が次々に生まれました。

# おめでとう! 日本遺産認定!

Congrats! Japanese heritage certification!





# 3市で開催していた「まちづくりカフェ」で実際に使ったワークシートをご紹介します!

7月から毎月一回、淡路市、洲本市、南あわじ市の3つの場所で、市民参加型として開催をしてきた「淡路まちづくりカフェ」。毎回、たくさんの市民の皆さんが集まり、日本遺産に選ばれた古代の文化財について学び、その面白さをもっと多くの市民に伝えるため、みんなで意見交換をしながら考えてきました! 第二号となる今回は、まちづくりカフェの中で参加者の皆さんと実際に盛り上がったワークシートの解説をしていきます。

## まちづくりカフェ 参加して下さった市民の皆さん、県立高校の学生たちと活用したワークシートの数々

### まちづくりカフェとは?

縄文時代・弥生時代の歴史的な文化財の素晴らしさを、文化庁から認められた日本遺産。これからどんどん広がっていく予定ですが、実際のところ、約2000年前の淡路島の風景って、現代に残っているものが少なすぎて、市民の皆さんに「古代」の魅力がなかなか伝わらないという難しさがありました。そこで、まちづくりカフェでは、参加者の皆さんとともに古代のことを学び、たくさんの市民の皆さんに魅力を伝えていくということを目的として、さまざまな対話を重ねてきました。



### 企画を考えるためのもの

**淡路市を盛り上げるために**  
～活動費が、もし10万円あったなら～

1. 淡路市の種のために取り組みたい?

子どもたちのため 大人たちのため 高齢者のため  
動物のため その他( )

具体的に

2. 淡路市のどんな目的をプラスにするため?

環境のため つながりのため 出会いのため  
学びのため 広報PRのため ビジネスのため  
その他( )

具体的に

3. 具体的に、10万円でどんなことをしてみたいですか?

もし、実現できるなら、  
を したい!

具体的に

イベントや体験プログラムを考える際、「対象」と「目的」を明確にしておくことがとても大切! ワークシートでも、まずは「誰を対象にするか」についてチェックをします。例えば、子どもたちのため。その他にも、大人たち、高齢者、環境のためなど。さらに、目的についても、つながりや出会い、地域のためなどを考え、しっかりとアクションに向き合う準備を整えます。

### 高校生とパッケージを考えた

**届けたいお情報のイメージ**

10代男性 10代女性 20代独身男性 20代独身女性  
20～30代子育て男性 20～30代子育て女性  
40代以降のおじさん 40代以降のおばさん

**パッケージに載せたい「商品の強み」「オススメ情報」**

例) 淡路島で作られたお菓子を食べています!  
例) 高校生がすべて手作りで作っています!

どのくらいの値段だったら、自分で買いたいですか?  
円 ～ 円

県立淡路高等学校の高校生に向けて授業。パッケージのデザインの「対象」と「情報」について徹底的に考えました。

**新商品のパッケージについて考えてみよう!**

学年/クラス	氏名

**デザイナー/キーマン**

可愛い・キュート カジュアル ポップ カラフル  
コージー にぎやか モダン クール  
高級感 シンプル 優しい 素手

**カラーイメージ**

青系(やさしい・涼み) 黄系(豊実・温かい・クール)  
赤系(さわやか・活発) 黒系(自然・モダン・高級感)  
緑系(健康・ナチュラル) 紫系(オシャレ・ポップ・にぎやか)  
グレー系(豪華・シック・高級感) 茶系(幻想・神秘)

デザインを作るために必要なのは、ハッピーな想像力! 「デザイナー/キーマン」を考えた「カラー」を選び、無限の可能性を思い描きます。

### ワークショップの目的

**ワークショップで考えたいこと**

「日本遺産ってなに?」と聞いても伝わらない! 「日本遺産に選ばれたこと」を誇りに感じたい!

<b>日本遺産を詳しく知る</b> ためには?	<b>古代に興味を持ってもらう</b> ためには?	<b>地域に誇りを感じてもらおう</b> ためには?
そもそも、日本遺産に選ばれているってどういうこと?	小学生は漢字やカタカナが読めないからどう伝える?	地元にはどんな歴史があるの? 誇りに感じてもらえるように?
<b>子どもたちに地域を知って</b> もらいたい!	<b>地域や学校を巻き込んでいく</b> ためには?	<b>淡路島を自慢できるように</b> するには?
小中高に歴史や文化の魅力を伝える授業を持ってもらう?	子どもたちを巻き込んだ授業の場を設ける?	観光バス、歴史の魅力を伝えていくコース?

まちづくりカフェに参加する目的はさまざま。一人一人の目的を以下のカードで再確認。

### 企画を考えるためのもの

洲本市の中で、皆さんが「地域に誇りを感じたい」を伝えてください!

洲本市の歴史を、子どもたち、地域の大人に伝えていくためには、どんな方法が良いでしょうか?

歴史以外をテーマに、洲本市の良さを「子どもたちや地域の大人」に伝えていくには、どうしたらいいでしょうか?

企画の考え方は、大喜利に似ています。現場では、地域を元気にするネタがいっぱい!

## EVENT GUIDE イベントガイド

ひょうご歴史研究室 in 淡路島・淡路島日本遺産海人の調査研究事業

## 「淡路島古代史の魅力を探る -海人と国生み神話-」シンポジウム

日時 2018年 2月4日(日) 13:00～16:30 入場無料 開場受付: 正午(先着順/固定席220名) 場所 淡路市立サンシャインホール (淡路市浦148-1 電話:0799-74-0250)

平成27年4月、兵庫県立歴史博物館に開設された「ひょうご歴史研究室」と、淡路島日本遺産委員会は、これまで淡路島の「あまみ人」や「国生み神話」をめぐる共同研究をすすめてきました。このシンポジウムでは、その成果を3人の研究者が、文献史学と考古学の立場から、わかりやすく講演し、討議します。

**講演①**  
古市晃 (ひょうご歴史研究室客員研究員/神戸大学准教授)  
「古代の淡路島と海人」

**講演②**  
伊藤宏幸 (淡路市教育委員会・文化財活用等担当部長)  
「考古学からみた淡路島の海人」

**講演③**  
坂江渉 (ひょうご歴史研究室研究コーディネーター)  
「国生み神話と古代の海人」

シンポジウム コーディネーター  
高橋明裕 (ひょうご歴史研究室客員研究員/立命館大学非常勤講師)  
定松佳重 (南あわじ市教育委員会社会教育課課長補佐)

アクセス: バス JR高速バス・大磯号に乗り、「東浦バスターミナル」で下車してすぐ (三ノ宮バスターミナルより約1時間、高速舞子より約30分) 島内路線バスも「東浦バスターミナル」で下車  
車 神戸淡路鳴門自動車道・東浦ICで降りて約5分  
駐車 約60台駐車可。満車の場合は、北隣の「東浦ターミナルパーク」の駐車場をご利用下さい

ひょうご歴史研究室 in 淡路島・淡路島日本遺産海人の調査研究事業

### 淡路島古代史の魅力を探る -海人と国生み神話- シンポジウム

平成30年 2月4日(日)  
午後1時～午後4時30分 開場: 正午(先着順/固定席220席)

会場 淡路市立サンシャインホール (淡路市浦148-1 電話:0799-74-0250)

主催 兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室 淡路島日本遺産委員会 (構成団体: 洲本市・洲本市教育委員会・南あわじ市・南あわじ市教育委員会・淡路市・淡路市教育委員会・淡路県民局・(一財)淡路島くまのこ協会・(一社)淡路県観光協会・(一社)淡路青年会議所)

後援 兵庫県立考古博物館

**プログラム**

講演① 古市 晃 (ひょうご歴史研究室客員研究員/神戸大学准教授) 「古代の淡路島と海人」  
講演② 伊藤 宏幸 (淡路市教育委員会文化財活用等担当部長) 「考古学からみた淡路島の海人」  
講演③ 坂江 渉 (ひょうご歴史研究室研究コーディネーター) 「国生み神話と古代の海人」

シンポジウム  
コーディネーター  
高橋 明裕 (ひょうご歴史研究室客員研究員/立命館大学非常勤講師)  
定松 佳重 (南あわじ市教育委員会社会教育課課長補佐)

お問い合わせ先 兵庫県立歴史博物館 〒670-0012 姫路市本町68 TEL 079-288-9011 2018年2月4日

主催 兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室  
淡路島日本遺産委員会  
(構成団体: 洲本市・洲本市教育委員会・南あわじ市・南あわじ市教育委員会・淡路市・淡路市教育委員会・淡路県民局・(一財)淡路島くまのこ協会・(一社)淡路島観光協会・(一社)淡路青年会議所)  
後援 兵庫県立考古博物館  
お問い合わせ先  
兵庫県立歴史博物館 〒670-0012 姫路市本町68 電話: 079-288-9011







# HERITAGE FESTIVAL フェスティバル

11:00  
16:30 in 洲本市文化体育館

REPORT



木と布だけで構成されたシンプルな会場ブースをはじめ、国生みの物語を紹介するパネル、松帆銅鐸のレプリカなど。古代をテーマにした淡路島の日本遺産の魅力を落ち着いた空気の中、伝えていくイベント会場。



昨年11月18日(土)、洲本市文化体育館にて日本遺産に認定されて初めて、市民の皆さんが主体となる日本遺産フェスティバルが開催されました。会場には「まちづくりカフェ」の参加者が数か月をかけて考えた「古代」をテーマにしたブースがずらりと並び、会場をいっぱいにした数千人の来場者に日本遺産の魅力伝えていました。

## 淡路島日本遺産フェス 遂に開催されました！

### 洲本市 レトロこみち／洲本市

#### レトロこみちで浄瑠璃焼き印、復活

今や、全国からの視察が絶えないという洲本市の人気イベント「レトロこみち」では、当時は商店街の中に数多く見られた「淡路人形浄瑠璃」の人形焼の焼き印を使った地域のイベントを同時開催。日本遺産フェスでは、2日間で1万5千人もの観光客らが訪れるというこの人気イベントの紹介ブースを設置し、来場された方に魅力を発信しました。

同時開催のイベントは、「歴史を楽しく学ぶ、まちあるき」と題し、旧益習館庭園やこみち食堂で、淡路人形浄瑠璃の焼き印を押す体験、国生み神話を学ぶ紙芝居やクイズを実施。子どもたちが国生みに触れる、絶好の機会に。



- WORKSHOP 体験
- EXHIBITION 展示
- FOOD 食べ物
- SHOP 物販

### 洲本市 日洋堂／洲本市

#### スイーツの匠が銅鏡チョコを再現！

洲本市内で長年続く、パリの洋菓子屋をイメージしたスイーツ店・日洋堂。フェスティバルでは、初めての挑戦となる銅鏡とのコラボレーション商品が生まれました。王族や貴族だけの高貴な食べ物だったカカオと、権威の象徴である銅鐸をかけあわせ、世にも珍しい逸品チョコが完成。見た目のクオリティの高さに来場者を驚かせていました。

銅鏡チョコは、見た目だけでなく、味も一級品。高級なチョコレートの原材料をシェフの高い技術で調合し、最高級の味わいも実現。こちらの商品は日洋堂でも継続的に販売していますので、是非、手に取ってみてください。

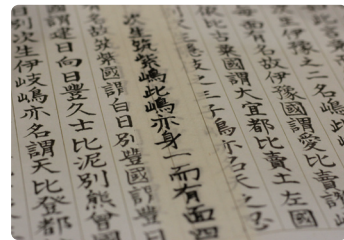


### 洲本市 東田裕美／洲本市

#### 写経ならぬ写古事記で初めての体験！

現存する日本最古の歴史書「古事記」。読み方は「こじき」または、「ふることぶみ」と呼び、712年に天武天皇の命によって書物としてまとめられました。この中に描かれている日本がいかにつくられたのかを伝える国生み神話の中で、淡路島についての一節を、書道師範の東田氏が写経のように自分で書ける全く新しい「写古事記」にしました。

ブースでは、東田氏が目の前で教えてくれる写古事記体験も実施されました。おそらく日本初の写経風の古事記の存在に、新聞や地域メディアも大注目。写古事記が欲しいという方は、東田氏に是非、ご連絡を。



### 洲本市 福祉施設／洲本市

#### 洲本の3つの福祉施設が生んだ新スイーツBOX

おのころ家、アミAMI、コスモス事業所の3つの福祉施設が、淡路島の日本遺産LINEスタンプをデザインした新しいパッケージの商品を発表。手のひらサイズの商品の1つ1つには、日本遺産に認定された文化財がキャラクター化され、淡路島の古代の魅力をキュートさ、そしてもちろん、スイーツの美味しさとともに来場者に伝えてくれました。

今回の新商品が作られていくまでの工程には、スイーツづくり、パッケージングなど、福祉施設に通う障害のある方が関わっています。日本遺産が地域とコラボできる素晴らしい事例を生み出してくれました。

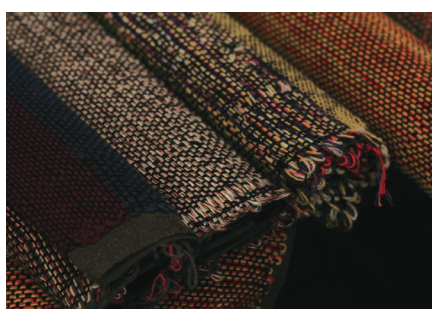


### 南あわじ市 南あわじ市立倭文小学校／南あわじ市

#### 小学生たちが歴史的な織物を直接、紹介

南あわじ市の倭文(しとおり)は、古代から地名にもなっている倭文織(しづおり)と呼ばれる美しい織物を作ることが盛んな地でした。今回のブースでは、地域の小学校で続いている「倭文織活動」から生まれた彩り豊かな織物の紹介や販売を、南あわじ市立倭文小学校の子どもたちが担当。元気いっぱいのブースは、常にお客様でにぎわっていました。

当日はバスに乗って会場にやってきた子どもたち。大声で呼びかけたり、ブースを飛び出して売り込みに行ったり、会場を明るく盛り上げてくれました。倭文織りに興味がある方は、倭文小学校の活動を要チェックです。



代の松  
るだけ  
いまし  
くりの